

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート (H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
170	58.89	58.98	破砕帯(主せん断面・58.98m)	58.89	58.98	破砕部(最新活動面・58.98m)				●58.89～58.98m: 破砕部 58.89～58.94m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5mmに細片化。岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。幅40mm。 58.94～58.96m: 粘土混じり礫状部(Hj) 傾斜25°で上下端ともに波打って連続。径2～4mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片からなる。やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96～58.98m: 礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2～3mmの石英粒。硬質岩片を5～10%含む。軟質。オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。	・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
171	58.89	58.94	Hj 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5mmに細片化。岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は褐灰色(10YR4/1)。厚さ40mm。	58.89	58.94	Hj 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20～30°とこれに直交～斜交する割れ目でφ3～5mmに細片化。岩片間の一部に淡黄～灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は褐灰色(10YR4/1)。厚さ40mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					
172	58.94	58.96	Hb 25°で上下端ともに波打って連続。φ2～4mm石英粒。φ5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈す。 色調はにぶい黄橙(10YR7/2)。厚さ15mm/m。	58.94	58.96	Hj 25°で上下端ともに波打って連続。φ2～4mm石英粒。φ5mm硬さ「D」岩片からなるを20～30%含む「粘土混じり礫状」を呈する。 色調はにぶい黄橙(10YR7/2)。厚さ15mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	58.89	58.98			
173	58.96	58.98	Hc-2 25°で上下端とも波打って連続。φ2～3mm石英粒。硬質岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色おびる灰白(7.5Y8/2)。厚さ15mm/m。	58.96	58.98	Hc-2 25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。φ2～3mm石英粒。硬質岩片を5～10%含む礫混じり軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白色(7.5Y8/2)。厚さ15mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。					
174	58.94	58.96	(破砕度区分欄)Hb	58.94	58.96	(破砕度区分欄)Hj	58.94	58.96	(破砕度区分)Hj		-
175	58.98	59.69	CL 59.50m以深では粘土を挟むことが多い。	58.89	59.69	OL 59.50m以深では粘土を挟むことが多い。	58.89	59.69	58.89～59.69m: CL 59.50m以深は粘土を挟むことが多い。		-
176	59.69	59.75	(岩級区分欄)D	59.69	59.75	(岩級区分欄)CL	59.69	59.75	(岩級区分欄)Clに含める		-
177	59.69	59.75	破砕帯(主せん断面59.69m)	59.69	59.75	破砕部(最新活動面59.69m)			●59.69～59.75m: 破砕部 59.69m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜52°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69～59.75m: 砂混じり岩片状部(Hj) 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。径5～20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙褐色を呈する。幅40～60mm。	・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
178	59.69	59.69	Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR6/6)。厚さ1mm/m	59.69	59.69	Hc-1 52°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR6/6)。厚さ1mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	59.69	59.75			
179	59.09	59.75	Hj 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。φ5～20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40～60mm/m。	59.69	59.75	Hj 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。φ5～20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈す。粘土は分布しない。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40～60mm。 細粒部は局所的に分布する。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。					

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
180	59.75	60.00	CL 割れ目挟在物の分布は少ない。	59.75	60.00	CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	59.75	60.00	59.75~60.00m: CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	-
181	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目や仰着割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目や仰着割れ目を多く含む。 挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.00	61.40	60.00~61.40m: CM 密着度の低い割れ目や仰着割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。	-
182	-	-	-	61.18	61.23	上端30°、下端33°、割れ目の上下端は波打っている。一部砂状化。マンガン鉱染が見られる。	61.18	61.23	61.18~61.23m: 上端30°、下端33°の割れ目の上下端は波打っている。 一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。	-
183	61.40	61.67	(岩級区分欄)CL	61.40	61.67	(岩級区分欄)CM	61.40	61.67	(岩級区分欄)CMに含める	-
184	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	CL 割れ目沿いに砂状化が進む。	61.40	61.67	61.40~61.67m: CL 割れ目沿いに砂状化が進む。	-
185	61.47	61.51	マンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-	61.47	61.51	61.47~61.51m: マンガン鉱染により黒褐色化する。	-
186	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	61.67~62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	-
187	62.23	64.25	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物をはさむことが多い。 硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物を挟むことが多い。 硬さ「D」の区間では割れ目沿いに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	62.23~64.52m: CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。全体に割れ目に砂や粘土脈などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目沿いに砂状化が拡大する部分もある。	-
188	62.82	62.93	62.82~62.93mはφ5~20m/m硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2m/mの軟質白色粘土脈も伴う。	62.02	62.93	62.02~62.93mはφ5~20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2mmの軟質白色粘土脈も伴う。	62.82	62.93	62.82~62.93m: 径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土脈も伴う。	-
189	63.03	63.03	30° 割れ目ぞいに厚さ5~15m/mがマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	30° 割れ目沿いに幅約10mmの淡褐色粘土。幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	63.03m: 30°の割れ目沿いに幅約10mmの淡褐色粘土。幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	-
190	63.04	64.17	硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む	-	-	-	63.04	64.17	63.04~64.17m: 硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。	-
191	63.60	63.70	コアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。	-	-	-	63.60	63.70	63.60~63.70m: コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。	-
192	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 原岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	64.17~64.52m: 割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明瞭に残留する。	-
193	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	64.52~66.39m: CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。	-
194	-	-	-	64.66	64.66	63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	64.66	64.66	64.66m: 63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>						
195	-	-	64.78	64.84	上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	64.78	64.84	64.78~64.84m: 上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	-		
196	65.19	65.19	65.10	65.19	38° 割れ目ぞい厚さ10mmで軟質化進む。薄い砂状部を挟む。	65.10	65.19	65.19m: 38°の割れ目ぞいに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。	-		
197	65.34	65.34	65.34	65.34	35° 割れ目ぞい厚さ25mm/mの石英質部で硬質。淡緑灰色緑泥石化。黒褐色マンガン化するが劣化は伴わない。	65.34	65.34	65.34m: 35°の割れ目ぞいに幅25mmの硬質な石英質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが劣化は伴わない。	-		
198	65.59	65.59	65.59	65.59	35° 割れ目ぞい厚さ20mm/mが砂状化~φ5mm/細片化。	65.59	65.59	65.59m: 35°の割れ目ぞいに幅20mmが砂状化~径5mmの細片化する。	-		
199	65.61	65.61	65.61	65.61	35° 割れ目を境として以て深は堅硬化する。	65.61	65.61	65.61m: 35°の割れ目を境として以て深は堅硬となる。	-		
200	66.09	66.09	66.09	66.09	55° 割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。	66.09	66.09	66.09m: 55°の割れ目ぞいに砂状化部を挟む。マンガン鉱染も伴う。	-		
201	66.37	66.40	66.37	66.40	割れ目ぞい厚さ30~40mm/淡緑灰色の緑泥石化。砂~粘土化部など劣化は伴わない。	66.37	66.40	66.37~66.40m: 割れ目ぞいに幅30~40mmが淡緑灰色の緑泥石化する。砂~粘土化部など劣化は伴わない。	-		
202	66.39	68.06	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟入物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	66.39	68.06	66.39~68.06m: CL 割れ目には砂を主体とした挟入物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	-		
203	-	-	66.80	66.80	51°の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	66.80	66.80	66.80m: 51°の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	-		
204	-	-	66.98	66.98	63°の割れ目に幅2~3mmの灰白色粘土を挟む。	66.98	66.98	66.98m: 63°の割れ目に幅2~3mmの灰白色粘土を挟む。	-		
205	67.12	67.12	67.12	67.12	55° 割れ目ぞい厚5mm/mで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	67.12	67.12	67.12m: 55°の割れ目ぞいに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	-		
206	67.30	67.70	67.30	67.70	60~90°の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2~3mm砂状化する。	67.30	67.70	67.30~67.70m: 60~90°の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2~3mmで砂状化する。	-		
207	68.06	68.93	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10~20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「C」砂礫状を呈する。	68.06	68.93	68.06~68.93m: D 強風化で砂状化が拡大。径10~20mmの硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「C」砂礫状を呈する。	-		
208	68.06	68.93	68.06	68.93	(風化欄) e ランク	68.06	68.93	(風化欄) e ランク	-		
209	68.40	68.60	-	-	68.40~68.60mは硬さ「D」の岩片からなる。	-	-	68.40~68.60m: 硬さ「D」の岩片からなる。	-		
210	68.69	68.69	68.69	68.69	30° 割れ目ぞい厚さ15mm/mが硬質淡緑灰色を呈する緑泥石化物。上端側に石英も伴う。	68.69	68.69	68.69m: 30°の割れ目ぞいに幅15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化が見られる。上端側に石英も伴う。	-		
211	68.93	70.10	68.93	70.10	CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂を挟むことが多い。一部では厚さ10mm/m程度まで砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	68.93	70.10	68.93~70.10m: CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度に砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	-		

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
212	-	-	69.22	69.22	45°の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	69.22	69.22	69.22m:45°の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	-
213	69.70	-	-	-	-	69.70	-	69.70m以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鉱染を受ける。	-
214	70.10	71.72	70.10	71.72	(変質欄)4ランク	70.10	71.72	(変質欄)3ランク	-
215	70.10	71.72	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。処々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	70.10~71.72m: D 風化と変質で著しく軟化するが、原岩組織と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深は岩片量が多くなる。	-
216	70.17	70.20	70.17	70.20	25°で波打ってマンガンが脈状に分布。黒色呈する。下盤側厚さ10m/mで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	70.17~70.20m:25°で波打ってマンガンが脈状に分布し、黒色を呈する。下端側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	-
217	70.20	71.30	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。厚1m/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	70.20	71.30	70.20~71.30m:粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	-
218	71.30	-	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的に径1~2mmの石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	-
219	71.72	72.76	71.72	72.65	CL φ10~20mm 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	71.72~72.65m: CL 径10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	-
220	72.12	72.17	72.12	72.17	30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	72.12~72.17m:30°の割れ目沿いに褐色化し、砂状化も拡大する。	-
221	72.65	73.38	-	-	-	72.65	73.38	72.65~73.38m: D	-
222	72.93	73.11	72.93	73.11	強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	72.93	73.11	72.93~73.11m:強変質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	-
223	72.93	73.11	72.93	73.11	(変質欄)4ランク	72.93	73.11	(変質欄)3ランク	-
224	73.18	73.19	73.18	73.19	20°割れ目そいに厚さ10~15m/mでマンガンが脈状に分布。	73.18	73.19	73.18~73.19m:20°の割れ目沿いに幅10~15mmでマンガンが脈状に分布する。	-
225	73.38	76.23	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」岩片主体。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が10m/m前後で密に分布する。	73.38	76.23	73.38~76.23m: CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが、全体的には軟化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が幅10m/m前後で密に分布する。	-
226	73.38	73.58	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3m/m灰白色粘土脈をはさむ。	73.38	73.58	73.38~73.58m:硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	-
227	74.04	74.04	74.04	74.04	25°割れ目そい約20m/m軟化進む。	74.04	74.04	74.04m:25°の割れ目沿いに幅約20mmで軟化が進む。	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
228	74.29	74.48	20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	74.29~74.48m:20~30° の割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。	-
229	74.72	74.84	硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	-	-	-	74.72	74.84	74.72~74.84m:硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	-
230	-	-	-	74.90	74.90	33° 割れ目ぞいに幅10mm程度砂状化。	74.90	74.90	74.90m:33° の割れ目ぞいに幅10mm程度が砂状化する。	-
231	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2m/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状に挟まれる。	75.05	75.56	75.05~75.56m:割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。	-
232	75.46	75.46	0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。	75.46	75.46	0° 幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて切って連続する。粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。	75.46	75.46	75.46m:0° で幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて連続する。粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。	-
233	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の礫状コア化している。	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の礫状コア化している。	75.80	75.87	75.80~75.87m:コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の礫状コアを呈する。	-
234	76.11	76.23	10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。	76.11	76.23	10~20° の低角度割れ目が多い。一部で灰白色粘土(幅0.5mm)を挟む。	76.11	76.23	76.11~76.23m:10~20° の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。	-
235	76.23	76.59	D	-	-	-	76.23	76.59	76.23~76.59m:D	-
236	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。	-	76.41	76.41m以浅は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。	-
237	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。	-
238	76.23	76.59	(風化欄)εランク	76.23	76.59	(風化欄)δランク	76.23	76.59	(風化欄)δランク	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)							
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事								
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事							
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容								
239	76.59	76.89	破砕帯(主せん断面76.59m)	76.59	76.89	破砕部(最新活動面76.59m)			●76.69~76.89m:破砕部 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をごくわずか(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白~にぶい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33°のせん断面(s)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。厚さ240m/m(コア長)。	76.59	76.89	破砕部(最新活動面76.59m)			●76.69~76.89m:破砕部 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をごくわずか(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。灰白~にぶい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33°のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。	-
240	76.59	76.59	Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1m/m。	76.59	76.59	Hc-1 47°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。										
241	76.59	76.65	Hb 上端48°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒。φ3~10mm/m粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)~にぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ40~50m/m。	76.59	76.65	Hb 上端47°で、下端55°でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒。φ3~10mm/m粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。上端側のHc-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)~にぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~50mm。やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	76.59	76.89								
242	76.65	76.89	Hj 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。φ3~10mm/m硬さ「D」~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33°のせん断面(s)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。厚さ240m/m(コア長)。	76.65	76.89	Hj 上端55°で、下端37°でともに直線的に連続。φ3~10mm/m硬さ「D」~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33°のせん断面(s)が分布。一部でマンガン鉱染伴う。 色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(7.5YR8/2)。厚さ240m/m(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。										
243	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明確なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明確なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	76.89	79.15	76.89~79.15m:CL 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明確なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	-						
244	77.58	77.65	φ10m/m前後の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	77.58~77.65m:径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。	-						
245	77.71	77.77	φ5~10m/m細片状~締った砂状を呈する。	77.71	77.77	φ5~10mm細片状~硬質な砂状を呈する。	77.71	77.77	77.71~77.77m:径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。	-						
246	77.79	77.85	硬さ「C」と硬化する。	-	-	-	77.79	77.85	77.79~77.85m:硬さ「C」と硬化する。	-						
247	78.05	-	78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。	-	-	-	78.05	-	78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。	-						
248	79.15	87.18	(変質欄)4ランク	79.15	85.03	(変質欄)3ランク	79.15	85.03	(変質欄)3ランク	-						

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
240	70.15	85.03	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に原岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。	-
250	-	-	-	79.37	79.49	上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状。	79.37	79.49	79.37~79.49m: 上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	-
251	80.14	80.31	幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	80.24~80.31m: 幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	-
252	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-	-	-	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-
253	80.76	81.68	割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	80.76	81.68	80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	-
254	81.70	82.40	岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	-	-	-	81.70	82.40	81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部で風化・褐色化が進む。	-
255	81.90	84.40	φ1~2mmの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。	81.90	84.40	φ1~2mmの表面がマンガンで黒色化した石英粒が点在する。	81.90	84.40	81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。	-
256	83.30	83.74	83.30~83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。	-	-	-	83.30	83.74	83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。	-
257	83.30	83.50	岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	-	-	-	83.30	83.50	83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	-
258	84.06	84.54	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	84.06~84.55m: 10~20°の割れ目ぞいに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。	-
259	84.54	84.71	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除去、岩組織は消滅している。	84.55	84.89	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除去、原岩組織は消滅している。	84.55	84.89	84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除去、原岩組織は消滅する。	-
260	84.89	85.03	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Ⅵランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	84.89	85.03	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	84.89	85.03	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	-
261	85.03	85.61	CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	84.89~85.61m: CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	-
262	85.36	85.60	割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	高角度割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	85.36~85.60m: 高角度割れ目ぞいの砂状化が進む。	-
263	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	85.28~85.32m: 緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	-
264	85.61	91.35	D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	85.61	91.35	D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	85.61	91.35	85.61~91.35m: D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり、全体として軟化が著しい。	-
265	85.61	87.18	(変更欄)4ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容		
266	-	-	-	85.70	85.70	15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	85.70	85.70	85.70m:15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	-
267	86.50	86.78	40~50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	40~50°割れ目沿いに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	86.50~86.78m:40~50°の割れ目沿いに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。	-
268	87.18	91.35	強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-	-	-	87.18	91.35	87.18~91.35m:強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂礫状を呈する。87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-
269	87.18	87.52	(地質名欄)Gp	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	-
270	87.18	87.52	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (変質欄)θランク (岩級区分欄)D	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	-
271	87.18	89.86	(色調欄)10YR6/3にぶい黄橙	87.18	89.86	(色調欄)7.5YR7/2明褐灰	87.18	89.80	(色調欄)明褐灰	-
272	87.52	91.35	(風化欄)εランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク	-
273	88.18	89.00	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.05	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.05	88.18~89.05m:残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	-
274	89.00	89.05	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)VIランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)eランク (コアの形状欄)Vランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)eランク (コアの形状欄)Vランク	-
275	89.00	90.14	89.00~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状~粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05~90.14m:岩片のみ採取され、基質の砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	-
276	90.15	90.55	締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	90.14	90.55	硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	90.14	90.55	90.14~90.55m:硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	-
277	90.55	90.85	90.55~90.85mはスライム。	-	-	-	90.55	90.85	90.55~90.85m:スライム。	-
278	90.55	90.85	(地質名欄)Gp	90.55	90.85	(地質名欄)コア欠如	90.55	90.85	(地質名欄)コア欠如	-
279	90.55	90.85	(割れ目状態欄)dランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (変質欄)θランク (岩級区分欄)D	90.55	90.85	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	90.55	90.85	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	-
280	90.85	91.00	硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	-	-	-	90.85	91.00	90.85~91.00m:硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
281	91.35	91.54	破砕帯(主せん断面91.44m)	91.35	91.54	破砕部(最新活動面は91.35mか91.44mの可能性 がある)			●91.35～91.54m:破砕部 91.35～91.43m:粘土質礫状部(Hb) 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。径2～3mmの石英 粒。径3～10mmの粘土化～砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白 ～にふい黄橙色を呈する。幅00mm。 91.43～91.44m:粘土状部(Hc-1) 傾斜25°で、上端は湾曲して、下端は波打って連続。径1mmの石英粒 をこわず(5%以下)に含む。軟質。灰白色を呈する。幅7～10mm。 91.44～91.51m:粘土質礫状部(Hb) 上端25°、下端18°とともに波打って連続。径5mm前後の硬さD岩 片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。浅黄橙色を呈する。幅 30～60mm。 91.51～91.54m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。下端面とほぼ平行 な20～30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬 さDの岩片に細片化する。岩片間には軟質粘土が分布する。にふい橙 色を呈する。幅20～25mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
282	01.35	01.43	Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ 2～3m/m石英粒。φ3～10m/m粘土化～砂状化岩 片を30%程度含む軟質な「 <b>礫質粘土状</b> 」を呈する。 色調は灰白(5Y8/1)～にふい黄橙(10YR7/2)。厚 さ80m/m	91.35	91.43	Hb 上端36°で波打って、下端25°で湾曲して連続。φ 2～3m/m石英粒。φ3～10m/m粘土化～砂状化岩 片を30%程度含む軟質な「 <b>粘土質礫状</b> 」を呈する。 色調は灰白(5Y8/1)～にふい黄橙色(10YR7/2)。 厚さ80mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認 められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。						
283	91.43	91.44	Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ 1m/m石英粒をこわず(5%以下)含む軟質粘土 (ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7～10m/m	91.43	91.44	Hc-1 25°で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ 1mm石英粒をこわず(5%以下)に含む軟質粘 土(ガウジ)。色調は灰白色(5Y8/1)。厚さ7～ 10mm。 変質を強く受けて、原岩組織が認められる岩片を主 体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	91.35	91.54				
284	91.44	91.51	Hb 上端25°、下端18°とともに波打って連続。φ 5m/m前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化し た軟質な「 <b>礫質粘土状</b> 」を呈する。 色調は浅黄橙(10YR8/3)。厚さ30～60m/m	91.44	91.51	Hb 上端25°、下端18°とともに波打って連続。φ5mm 前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したや や軟質な「 <b>粘土質礫状</b> 」を呈する。 色調は浅黄橙色(10YR8/3)。厚さ30～60mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認 められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。						
285	91.51	91.54	Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。 下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ 直交する割れ目が多くφ5m/m程度の硬さDの岩片 に細片化。岩片間には軟質粘土が分布。全体的に 「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにふい橙(7.5YR7/4)。厚さ20～25m/m	91.51	91.54	Hj 上端18°で波打って、下端20°で直線的に連続。 下端面とほぼ平行な20～30°割れ目とこれにほぼ 直交する割れ目が多くφ5mm程度の硬さDの岩片 に細片化。岩片間には軟質粘土が分布。全体的に 「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにふい橙(7.5YR7/4)。厚さ20～25mm 軟質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原 岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化 した岩片からなる組織が見られる。						
286	91.54	93.05	D φ10m/m前後の硬さD岩片と岩片間の粘土～砂 状部からなり、全体として軟質化著しい。92.00m以 浅では石英以外は砂状化する。	91.54	92.85	D φ10mm前後の硬さD岩片と岩片間の粘土～砂 状部からなり、全体として軟質化著しい。92.00m以 浅では石英以外は砂状化する。	91.54	92.85	91.54～92.85m:D 径10mm前後の硬さDの岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり、全体と して軟質化が著しい。92.00mは浅は石英以外は砂状化する。			
287	-	-	-	91.54	91.59	上端20°、下端8°の割れ目間が強く変質し、淡黄 色の砂礫状を呈する。	91.54	91.59	91.54～91.59m:上端20°、下端8°の割れ目間が強く変質し、淡黄色の 砂礫状を呈する。			
288	-	-	-	91.59	91.67	上端0°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マン ガン鉱染により、全体が黒色化する。	91.59	91.67	91.59～91.67m:上端0°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン 鉱染により、全体が黒色化する。			
289	91.54	92.85	(風化欄)のランク	91.54	92.85	(風化欄)のランク	91.54	92.85	(風化欄)のランク			
290	-	-	-	92.71	92.85	上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状 に分布する。	92.71	92.85	92.71～92.85m:上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布 する。			

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
291	92.85	93.25		92.85	93.25	92.85	93.25	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (岩級区分欄)D	(割れ目状態欄)○ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CL	-
292	93.05	93.66		92.85	93.66	92.85	93.06	CL 70~80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1~3m/m程度の砂状部→粘土化部をはさむ。	92.85~93.66m:CL 70~80°の割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1~3mm程度の砂状部→粘土化部を挟む。	-
293	93.66	93.86		-	-	93.66	93.86	D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	93.66~93.86m:D 上下端80°の割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	-
294	93.66	93.86		93.66	93.86	93.66	93.86	(風化欄)εランク (変質欄)4ランク (岩級区分欄)D	(風化欄)δランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)CLに含める	-
295	93.86	99.50		-	-	93.86	99.50	CL 50~70°とこれに直交する40~50° 割れ目が多い。 94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。	93.86~99.50m:CL 50~70°とこれに直交する40~50°の割れ目が多い。94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。	-
296	94.25	94.31		-	-	94.25	94.31	10~20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を呈する。	94.25~94.31m:10~20°の割れ目に囲まれ砂礫状を呈する。	-
297	94.25	94.31		94.25	94.31	94.25	94.31	(風化欄)εランク	(風化欄)δランク	-
298	94.43	-		94.43	-	94.43	-	94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10~20m/m程度の間隔で交差するため小岩片している。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため細片化している。 割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	-
299	95.50	95.71		95.50	95.71	95.50	95.71	95.50~95.71mは割れ目から分離し、φ10m/m前後に小岩片している。	95.50~95.71mは割れ目から分離し、φ10mm前後に細片化している。	-
300	95.96	95.96		95.96	95.96	95.96	95.96	60° 割れ目に厚1m/m灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5m/mにマンガン鉱染部を伴う。	95.96m:60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mmにマンガン鉱染部を伴う。	-
301	95.94	98.05		95.94	98.05	95.94	98.05	硬さ「D」の岩片状コア主体。処々に硬さ「C」も混入する。	硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。	-
302	96.52	97.60		96.52	97.60	96.52	97.60	30~40°と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右スレ3~5m/m)	30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。切られるものもある。(右スレ3~5mm) 60~70° 割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。	-
303	97.07	97.07		97.07	97.07	97.07	97.07	幅2~3m/m、15° 石英脈。劣化は伴わず密着。	幅2~3mm、15° 石英脈。劣化は伴わず密着。	-
304	97.58	97.69		-	-	97.58	97.69	マンガン鉱染が進み黒褐色化。	97.58~97.69m:マンガン鉱染が進み黒褐色化する。	-
305	97.69	97.78		97.69	97.78	97.69	97.78	硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2m/m白色粘土が脈状~φ2~3m/m斑点状で分布する。	硬さ「C」岩片中に硬質な幅1~2mm白色粘土が脈状~φ2~3mm斑点状で分布する。	-
306	98.02	98.02		98.02	98.02	98.02	98.02	幅2~5m/m、30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	幅2~5mm、30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	-